


高野参詣道 黒河道・京大坂道

1,000m	橋本駅	1.8 km 25分	定福寺	0.9 km 25分	五軒畑岩掛観音	0.6 km 20分	鉢伏弘法井戸	1.0 km 20分	明神ヶ田和	2.0 km 60分	市平橋	2.1 km 70分	戦場田和	2.1 km 50分	久保小学校跡	0.9 km 15分	茶室跡	1.7 km 55分	東郷分岐	1.2 km 30分	粉撞峠	1.2 km 20分	一本杉	2.4 km 40分	黒河口女人堂跡
--------	-----	---------------	-----	---------------	---------	---------------	--------	---------------	-------	---------------	-----	---------------	------	---------------	--------	---------------	-----	---------------	------	---------------	-----	---------------	-----	---------------	---------


① 定福寺

本尊阿彌陀如来坐像は平安時代中期の古仏(和歌山県指定文化財)。庫裏は高野山の僧が遊庵に用いる里坊の様式を残す(国登録有形文化財)。黒河道沿いの参道石段脇には九重石塔があり、弘安8年(1285)の銘を刻む(橋本市指定文化財)。




② 五軒畑岩掛観音

西国巡礼のミニチュア版として橋本市清水・西畑・向副・賢堂・南馬場で巡拝するもので、文政13年(1830)にはじまる。岩掛観音は西国14番大津三井寺にあてられている。ここからの橋本市街の眺めは素晴らしい。




③ 鉢伏弘法井戸

鉢伏の名は山の形が鉢を伏せた形状であること由来する。蜂が群生して住民を苦しめていたと弘法大師が蜂を退治したと伝説されている。井戸は大師の加持水と伝わる。



④ 明神ヶ田和

明神ヶ田和ともいう。弘法大師がここで護摩供を行い、明星から無数の流星が出現したことからこの名があるともいわれる。黒河道の橋本市内での最高所でもある。賢堂・青淵・田城山・清水・わらん谷(黒河道)へ至る道がここで分岐する。




⑤ 給水施設

明神ヶ田和の南約600m、沢の水を取水して明神ヶ田和へポンプアップしていた施設で、田城山麓の橋本市西畑・清水へ給水していた。




⑥ 藁谷の滝

給水施設の南約700m、黒河道の西側の谷が深くなると落差5m程度の滝が目につく。藁谷では最も大きな滝で、霊場高野山へ向う旅人の心を清めたことであろう。



⑦ 赤石

藁谷の滝の約100m南、黒河道に突き出した巨石がある。黒河道を行き交う旅人の目印となった。南へ約200mで橋本市と九度山町の境界となる。




⑧ 市平春日社

黒河道から見上げる石段の上に鎮座する春日社。その背後に大いなる柱の樹がそびえている。3月末から4月中旬のわずかな期間に桃から緑、そして黄色に変化する姿は貴重な光景。



⑨ 市平石地蔵

市平の春日社から久保に向けて九十九折の急坂を登ると道の山側に小さな石の地蔵がまつられている。急坂を登ってきた旅人はここで一息つき、地蔵に旅の安全を願ったと想像される。




⑩ 戦場田和

黒河道と林道が交差する戦場田和は北へ黒河道の急坂を下ると市平へ、林道を東へ東へ南へ、南へ向って黒河道を進むと太閤坂を経て久保へ、西へ林道を進むと戦場山を経て久保に至る。




⑪ 一本杉

粉撞峠から山内に向けて下り、奥院の背後に出るところに大きな一本杉が立つ。一本杉の裾には花筒岩製の道標が2基建てられ、「右てんく(転輪)山左おくのぬん」とあり、ここで黒河道から奥院への道が分岐する。



⑫ 黒河口女人堂跡

高野町役場の北東約200mに「黒河口」の立札が建てられている。高野七口の一つ黒河口の女人堂があったところ。明治初期まで高野山は女人禁制が守られていたため、高野山への7つの入口である高野七口にはそれぞれ女人堂があり、ここから山内への女性の立ち入りを禁じていた。現在は不動坂口にのみ女人堂が残る。



豊臣秀吉と黒河道

文禄3年(1594)3月、豊臣秀吉が高野参詣の帰途この道を用いたとされ、その経路が「紀伊統志」などに見えます。秀吉が高野山の際、千手院口から銅鑼(雲池山)の北を通って、久保村・市平村を経て、丹生川を渡り、藁谷から明堂が(明神ヶ田和)を越え、紀の川を渡って橋本町へ出たとのルートが記されています。当時、天下人であった秀吉が利用した道であり、主要な参詣道の一つであったことがうかがえます。また、周辺の村々の産物を高野山へ納める「雑事のぼり」にも用いられた。


⑬ 久保の石仏

「往來安全」と刻んだ台石の上に、弘法大師像と観音菩薩像、南無大師遍照金剛と南無観世音菩薩と2段に刻まれている。向って左側面には「右かうや(高野)左まにん(摩尼)道」と記し、ここで高野山への道と旧摩尼村への道が分岐する。また、現在は九度山町河根からの舗装道がここへ合流する。



⑭ 久保小学校跡

久保の石仏の向かい側に建つ。かつて、周辺地域のこどもたちが通っていた小学校で、平成18年に休校となった。学校敷地の西側の道を南にたどると茶室跡から粉撞峠へ通じ、道を東へ東へすると旧黒河村から摩尼山へ通じる。例年4月中旬に咲く校庭の桜は見事。平成29年10月1日「くどやまの童話館」としてオープンした。



⑮ 高野豆腐製造所跡

気温が下がる高野山周辺では凍り豆腐の生産が盛んで、高野豆腐と呼ばれた。黒河道沿いにもその跡があって、凍り豆腐製造所跡の水槽跡や大きな石臼が今に残り、当時を偲ばせている。



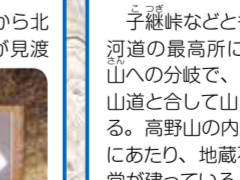
⑯ 東郷分岐

黒河道から東郷へ行く道が西へ分岐している。樹間から北方を望むと晴れた日には紀見峠の向こう側に南河内が見渡せ、PLの塔も見ることが出来る。



⑰ 粉撞峠

子鍾鉢などとも表記され、黒河道の最高所にあたる。檜・柳山への分岐で、女人道・高野三山道として山内に向う道となる。高野山の内外を巡る峠にあり、地蔵石仏を納めた小堂が建っている。石仏には永正9年(1512)の年号と「検校重任」の銘が読み取り、黒河道の歴史が察せられる。



こうやせんじち くるこみち 高野参詣道 黒河道

黒河道は高野七口の一つ黒河口に至る高野参詣道で、橋本市賢堂から高野山の千手院谷へ通じ、橋本から高野山への近道とされた。また、大和国からの参詣客がしばしば利用することから、古くは黒河口と呼ばれていた。道が狭く、多くの参詣客は黒河道の西方を並行する京大坂道を利用したと言われます。文禄3年(1594)の豊臣秀吉の高野参詣の帰途に用いられたとされ、高野参詣の主要な道の一つであったことがうかがえます。高野山の周辺地域では地域の産物を高野山へ奉納する「雑事(ぞうじ)のぼり」にも利用され、物資の輸送にも利用されたことが推定されています。黒河道とされるルートはいくつかありますが、秀吉の利用したとされるルートが復原され、平成27年10月、国の史跡に指定され、翌年の平成28年10月世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されました。



この地図は、国土院院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平30情復 第223号)

凡例

- 誘導板
- △ 解説板
- ▲ 里程
- ♣ トイレ
- 🚗 駐車場
- 📶 携帯電波感度(ドコモ)
- 黒河道
- 黒河道(世界遺産)
- 京大坂道
- 京大坂道(世界遺産)
- 女人道
- 女人道(世界遺産)